

10歳の私から届いた手紙

2016年1月10日。私が成人を迎えた日、10年前の私から手紙が届きました。小学4年生の頃、授業で2分の1成人式を行ったときにハタチの私に宛てて書いた手紙です。

「お元気ですか？10歳の私です。今、私は学校に行っていません。入院して、退院して、をくり返しています。お母さんはベッドの横にふとんをひいて毎日病院にとまっています。仕事をやめて、今はずっと私のそばにいます。最近では背中のお骨がベッドに当たって痛くて眠れなかったり、一人で歩くこともできないくらいに体力が落ちました。昨日はお父さんにおんぶしてトイレまで連れて行ってもらいました。今日の朝、点滴が外れたからお母さんにお風呂に入れてもらいました。1週間ぶりでした。背中を流してもらったとき、お母さんが泣いてるのが鏡越しに見えました。お母さん泣いてるとこ初めて見た。その時に、病気あんまり良くないんだなって何となく気がついちゃって。こんなこと誰にも言えないから、ハタチの自分にだけこっそり言っておきます。

今はあんまり体調良くないけど、調子が良かったときもあって、バリ島に旅行に行ってきました。帰りの飛行機の中でお母さんと、大人になったらまた一緒に来ようねって約束しました。でも、何年後、とか、将来、っていう話をするのがすごくこわい。だってそのころ、生きてるか分からないから。でも、大人になったら看護師さんになりたいです。担当の看護師さん、すごくステキです。私もあんな看護師さんになりたい。それが今の私の夢です。

最後に、ハタチの私に聞いておきたいこと。10年後は何をしていますか？楽しいですか？幸せですか？ちゃんと友達はいますか？看護師になるための学校に行っていますか？私は生きていますか？」

入院中の出来事や当時の思いが書き綴られていました。入院のため学校にはほとんど通っておらず、保健室登校や不登校を繰り返していました。この手紙を読んだとき、当時のことが走馬灯のように蘇り、涙が止まりませんでした。まるで10年前にタイムスリップしたかのようでした。あの頃は、私の人生においてどん底だったかもしれません。でも、ハタチの私から10歳の私にメッセージを送るとしたら。心配しないで、私はちゃんと生きています。高校では、自分の人生を大きく変える大切な友達にも出会います。些細なことでお母さんと大喧嘩することもありました。第一志望の看護学校に合格し、夢が1つ叶います。看護師になるまであと1年。今までにないくらい必死に勉強しています。これまでの人生の中で1番勉強している時期かもしれません。泣きたい、逃げ出したい、そう思うこともたくさんあります。でも、患者さんのある一言で私は救われます。家族、友達、先生、患者さん、色んな人に支えられて、私は今『生きています』。ハタチの私、すごく幸せです。強くて優しい看護師になります、と10歳の私に誓います。